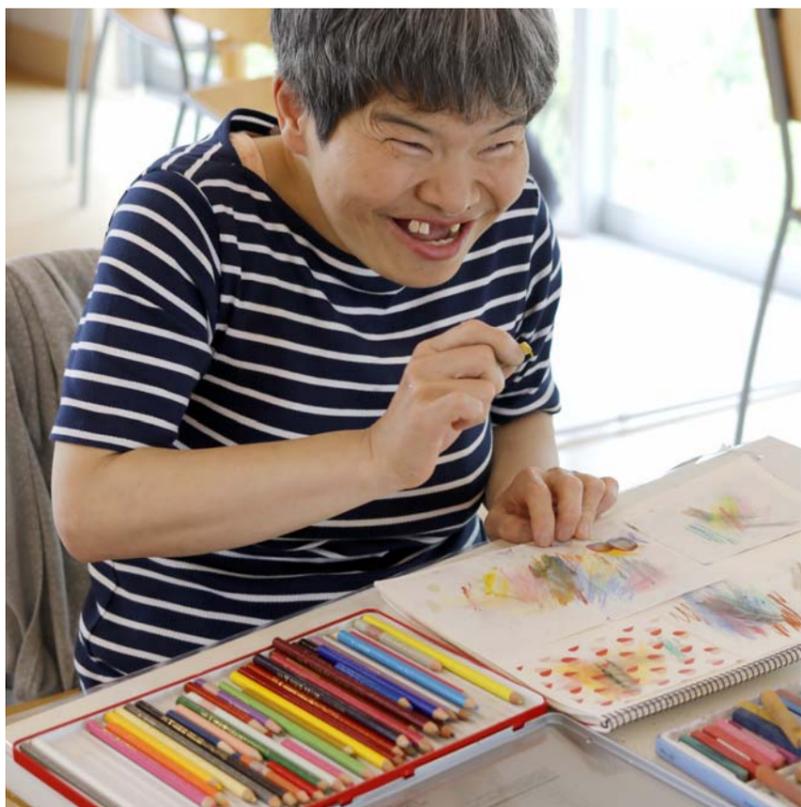


# 夢中で描くアートの世界



かぎやま ゆきえ  
鍵山雪絵さん

パワーズ山田に通所 / 45歳

鍵山雪絵さんは、生活介護事業所『パワーズ山田』に通所して日中の時間を仲間たちと過ごしています。ここで描かれた作品は、高知県が主催する障害者美術展『スピリットアート展』で入賞するなどの評価を受けています。

**明** るくて広い室内では、障害者の福祉サービスを受ける人たちが思い思いの時間を過ごしていた。ここは生活介護事業所『パワーズ山田』。ある人は手芸に没頭し、またある人は仲間たちと談笑する。その中に、クレヨンを手で黙々と色を塗り込む鍵山雪絵さんがいた。次々と違う色のクレヨンを持ち替えながら、夢中でスケッチ

ブックに向かう姿はとてもエネルギーギッシュだ。描き始めると、1時間でも2時間でも、止めるまですり続けるという。知的障害がある雪絵さんは言葉によるコミュニケーションは苦手だが、スタッフや仲間に見せる笑顔はとてもチャーミング。絵にどんな思いを込めているのか聞いてみたが、ニコッと笑うだけで教えてはもらえなかった。

スタッフの方に聞くと、「どんな形を描きたいかというよりも描くという動作自体が好きみたいです。陶芸も大好きですが、土を触り、こねる感触が好きなんじゃないかと思えます」とのこと。一心不乱に描いた結果生まれるアート。夢中になれるアートの時間は、雪絵さんの笑顔の源なのではないかと感じた。



市内の障害者の方が描いたアート作品。鮮やかな色彩に目が奪われる

特集

## もっと知ってほしい障害のこと

**障害がある人もない人も共に生きるために、まず何ができるでしょうか**

香美市には現在、約26,400人が住んでいます。そのうち、障害者手帳を持っている人の数は2,173人(平成30年3月31日現在)。人口の約8.2%の人が何らかの障害を抱えていることになります。障害者手帳を持っていない方も含めれば、さらに多くの障害のある方が、同じ地域で暮らしています。しかし日常生活の中で、障害のある人とない人が普通に接する機会は少ないのではないのでしょうか。障害のある方に寄り添い、共に支えあって生きていくために必要なこととは何か。障害がありながらも、社会の中でいきいきと暮らす人たちの姿を通して、皆さんと一緒に考えたいと思います。



鍵山雪絵さんの絵画作品と陶芸作品